

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	玉井 操
------	------

主な担当科目	学習指導論,教科教育法(音楽)①,教職論
--------	----------------------

2025年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	本学の教育理念に則り、社会に有用で魅力ある人材を育成することを目標に取り組んだ。授業では教職課程の科目を担当し、一人一人の学生と真摯に向き合い、教職に求められる資質能力を培うとともに、音楽科の学習指導案の作成とその評価、模擬授業の指導に力を注いだ。また、教員採用試験に臨む学生に対し、論文や実技、面接等の指導を実施し、合格への支援に尽力した。
----------------------------	---

2025年の教育に関 する自己評価	本学の教育に携わる2年目として、昨年度の反省を生かして学生一人一人にさらに寄り添った授業展開を心掛けた。教職課程の担当として、教育実習生の実習先を訪問し(5校)、研究授業を視察して指導助言を丁寧に行った。また、授業研究や教材研究を綿密に行うとともに、全国都道府県及び政令指定都市の教員採用試験における適性検査の実施実態を調査し、教職に求められる適性及び資質能力について学習指導要領の変遷を軸にまとめ、本学の「紀要第45号」へ寄稿することができた。
----------------------	---

2025年のFD活動 に関する自己評価	FD合同研修(2回)、芸術特別研究分科会FD(1回)、基礎ゼミ分科会FD(2回)、資格課程分科会FD(2回)に参加し、本学の目指す自己啓発と自己開発に取り組んだ。いずれにおいても、現在の課題を共有し、今後のあるべき運営の在り方について意見交換や情報交換ができた。
------------------------	---

授業改善のために 取り入れた研修内容	・資格課程分科会FDにおいて、「伴奏法」を担当されている先生方から学生の状況や「弾き歌い試験」、履修システムについて貴重なご意見を頂戴し、教職課程の授業に生かすことができた。・全体FDでの講話「ハラスメントとその防止について」の特に授業における「アカハラ」に注意を払うようにした。また、「私立学校法の改正と内部統制」の講話から自主的な大学のシステム構築を学び、それらを踏まえた授業を実施することに心掛けた。
-----------------------	---

2025 年度(春学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3678 教員名:玉井 操

1)アンケート結果に対する所見

- ・Q5(自分はこの授業に興味や関心を持っている)及び Q6(この授業はわかりやすくするための工夫がなされている)の否定的割合が全体平均に比べて若干低いことから、担当する当該授業の目指す内容が学生に把握されにくく、授業内容の理解が難しい学生が存在することがわかる。授業の意義と目標を明確に示し、学生の探究心を呼び起こすような動機づけが必要であることがわかる。
- ・Q8(自分はこの授業の教育到達目標を達成できた)について、講座により否定的回答の有無に大きな違いがあり、受講者の集団によって学生の自己評価が異なることがわかる。科目のねらいや教育到達目標等について、もっと丁寧に説明する必要があることがわかる。
- ・Q10(総合的にみて、この授業を受講してよかった)の満足度は、すべての講座で肯定的回答が 9 割を超えているが、全体平均値には若干届いていない。

2)要望への対応・改善方策

- ・筆記試験の問題について、その形式や内容がよく把握できなかったという意見に対しては、今後はもっと事前に丁寧に説明をする必要があることがわかったので改善に努めたい。
- ・試験の問題を何問か練習させてほしいという要望に対しては、現実的に試験の予行は難しいため、試験に課される重要な事項について予め明確に示していくことを考えたい。

3)今後の課題

- ・授業のオリエンテーションに際して、担当する科目の教育到達目標及び期待する学修成果について明確に学生に示し説明すること。
- ・学生が、いかに学修への意欲をもち、学修効果を図っていくか、そのモチベーションを保たせる方法を考えていくこと。
- ・科目の性質上、講義中心の授業となる科目については、学生自らが探究心をもち、目的をもって学修に臨むことができるよう、学生相互のコミュニケーションの場を設定し、アクティブラーニングの手法を用いる等の工夫をさらに取り入れること。

以上

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3678 教員名:玉井 操

1)アンケート結果に対する所見

・「教科教育法①」(3講座)

概ね一定の満足度を示しているが、満足度が学短全体の平均値を下回る講座もあり、それについては真摯に受け止めたい。

通年の授業のため、学生のモチベーションを持続させることが難しいせいか、Q5(自分はこの授業に興味や関心を持って出席している)が、全体の平均値を若干ではあるが下回った。

・「学習指導法」(3講座)

講座(3講座)によって満足度に差がみられる。講座による回答者割合にばらつきがあるため技術的問題から発生したとも考えられるが、授業内容はどの講座も同様であるので、何が原因なのかを検証したい。

授業が学部3年の秋学期という期間であるため、教職課程を履修することへのモチベーションが高く、履修者は意欲的に授業に臨んでいることがわかる。

2)要望への対応・改善方策

(要望)課題が早く終わってしまい、時間を持て余した。

⇒学生の状況を把握し、必要に応じて追加の課題を指示したいと思う。

(要望)模擬授業を実施してもしなくても評価が同じである。差別がある可能性もある。

⇒模擬授業は授業回数の関係から履修者全員が実施できないのが現状である。模擬授業を実施した場合はその成果を評価し、また全員が提出する学習指導案及び模擬授業後の研究協議への取組み方、さらに模擬授業者以外の学生が記録する模擬授業ワークシートについて総合的に評価している。そのため、指摘のような状況が発生しうる可能性はゼロではないが、差別のようなことにはまったく当たらない。

(要望)弾き語り試験のピアノを試験前にもう少し見てもらいたかった。

⇒授業時間内で時間を設けることは難しいため、補講という形で今後呼びかけ、希望者には十分な指導・助言ができるようにしたい。

3)今後の課題

シラバスに示している内容について授業内で改めて説明するとともに、特に評価に関わる事項については繰り返し説明することが必要であること。

授業では常に学生の状況を把握しているつもりであるが、特に人数が多い講座(30名を超える講座)では、さらなる目配りが必要であると感じられる。一人一人の学生への目配りを、これまで以上に心がけていきたい。

以 上